

第4回
中学生食の作文コンクール

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

金賞

家族との時間

東京都田園調布学園中等部2年
池田 莉子



私は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、外出もすることが出来ず、初めての経験で慣れないオンライン授業が始まりストレスを感じていました。しかし、その中で毎日楽しみにしていることがありました。それは、「食事」です。その理由は、引きこもりの毎日でも、食べ物をおいしいと感じられること、また食事をするという時間を家族と共に過ごすことを楽しいと思えたからです。

ちょうどコロナが流行り始めた頃、我が家は区の抽選に当たり、畑を借りることになりました。どこにも出かけられない日々、畑を耕し、種をまき、水やりをするという、野菜を育てることも楽しみのひとつでした。数日おきに水やりをして雑草を抜く作業は私のストレス発散にもなりました。自分たちで育てた野菜をどんな風に料理をしようかと家族で話したり、実際に購入してきた野菜と比べてより味わって食べたり、畑で野菜を育てることを通して家族との会話も増えました。

また、コロナ自粛期間中は父も在宅勤務になることが多く、普段料理をあまりしない父が料理をしてくれました。父が作ってくれたのは、スパイスをたくさん使った本格的なカレーです。初めて本格的なカレーを食べた時は、スパイスの独特な味で慣れませんでした。何度か食べるうちにス

パイスのおいしさを知ることになりました。

このカレーのおいしさには、二つの理由があると思います。一つ目は、カレーに入っている野菜が自分たちで作っているものだったからです。カレーの具材になるまでの野菜の成長を知っているからこそ、ひと口、ひと口味わって食べました。種をまいてから野菜になるまで大切に育ててきたので、おいしさは倍増でした。

二つ目は、父が思いを込めて作ってくれたからだと思います。やはり、一生懸命作ってくれたそれは食べる人にも伝わります。普段作らない父が作ってくれたことで感じる事ができました。いつも何気なく食べていた母の料理もそういう想いがつまっていることに感謝をしなければいけないと感じました。

「食事」とは、人の体を作る大切なことです。しかし、それだけではなくコロナ禍で、毎日の食事の大切さやありがたさ、何よりも家族と過ごす大切な時間として、改めて感じる事が出来ました。この思いを忘れずにこれからも食事を楽しみ、また食べ物を食べられていることに感謝していきたいと思いました。